

さじき殿御返事

文永一〇年四月二六日 五二歳

滝王丸之を遣使さる。

昔国王は自身を以て床座しょうざと為し、千才の間阿私仙あしせんに仕へ奉り妙法蓮華經の五字を習ひ持つ、今の釈尊是なり。今の施主妙一比丘尼は貧道たすの身を扶けんとて小童に命じ、之を使はして法華經の行者に仕へ奉らしむ。彼は国王此は卑賤。彼は国に畏れおそなし、此は勅勘の身。此は末代の凡女、彼は上代の聖人なり。志こころざし既に彼に超過す。来果何ぞ齊等ならざらんや。何ぞ齊等ならざらんや。

弁殿は今年は鎌倉に住して衆生を教化せよ。恐々謹言。

卯月二十六日

日 蓮 花 押

さじき

妙一尼御前